

表1 プナ林の下限の林分（檜村 1980 より改変）

極相	越後山地		奥羽山地		阿武隈山地	
	地名	標高(m)	地名	標高(m)	地名	標高(m)
気候的	横田	400	舟ヶ鼻峠	720	万太郎山	700
	大岐	420	曾原	840		
	蒲生	440	京ヶ森	850		
	叶津	460	三森峠	860		
			大戸岳	830		
地形的			名号	400		
	大久保	260	摺上山	430	大越	460
	三条	380	山田原	490		
			下守屋	470		

りの実態はどうなっているのでしょうか。これについては檜村（1980）の追跡がある。すなわち、東北地方南部に実存するブナ林分のうち、低標高の立地のものを例示すると表1のようになる。ここでも、阿武隈山地と奥羽山地では、さきにのべた吉良説がよくあてはまり、最低位のブナ林は標高400~500 mにみられる。ただし、豪雪の越後山地では、これより約100 m下降するという実態もあるようである。しかし、これら最低位のブナ林分は、おしなべて、林床植生としてブナ林にふつうとされるチシマザサないしスズダケの繁茂を欠き、しかも、林分自体の分布も極めて散発的である。このような実態は、恐らく、このような低位の地帯ではブナ林は気候的極相としてではなく地形的極相として現われるものであることを物語っている。

典型的な気候的極相として知られている、林床にチシマザサ、スズダケ、あるいはユキツバキの繁茂するブナ林の下限は、同じ表1にみる通り、阿武隈山地で標高約700 m、奥羽山地及び越後山地で標高約400 mになる。ただし、奥羽山地での400 mは福島市名号^{なごう}の1例があるだけで、他は阿武隈山地の場合と類似の標高をもつ。ブナ林の下限の高さは、概して東高西低の傾向があるといえるが、この傾向は明らかに積雪量のそれと関連していると思われる。福島県の豪雪地帯は第1が越後山地であるが、西北方の吾妻山塊もこれに次ぐ雪の多い地域である。すなわち、福島県は西から北にかけての山地で雪が多く、東の太平洋岸側、及び南の関東平野に近い部分で雪が少なくなる。前記の福島市名号のブナ林は、名号の集落よりもさらに西寄りの摺上山に近く、米沢盆地に東接する山地にあって、立地の最深積雪は1 mを超えると推定される。奥羽山地でも、その東部や南部では、ブナ林の下限は阿武隈山地とそう違わないと考えてよいであろう。

これらブナ林分の分布下限を中間温帯林の分布上限としてみるならば、福島県における中間温